

彙報

教育実習訪問指導

2023年度の教育実習は、ほぼ当初の予定通り実施された。許可が得られる限りにおいて、専任教員が全ての実習校に訪問して参観と指導を行なった。沖縄県に関しては同県在住の客員教員が訪問し、その所見を共有して指導に当たった。実習地、教科、期間は以下に示す通りである。

法学科学生の教育実習期間

実習地	教科	当初予定	実習期間
岐阜	社会	5月下旬～	変更なし
岐阜	社会	5月下旬～	変更なし
岐阜	社会	5月下旬～	変更なし
岐阜	社会	10月中旬～	変更なし
岐阜	地歴	6月中旬～	変更なし
富山	公民	5月下旬～	変更なし
富山	地歴	6月上旬～	変更なし
京都	地歴	5月下旬～	変更なし
福岡	地歴	5月上旬～	変更なし

経営学科学生の教育実習期間

実習地	教科	当初予定	実習期間
岐阜	商業	6月上旬～	変更なし
岐阜	商業	6月上旬～	変更なし
岐阜	商業	6月上旬～	変更なし
岐阜	商業	6月上旬～	変更なし
静岡	商業	10月下旬～	変更なし

健康スポーツ科学科学生の教育実習期間

実習地	教科	当初予定	実習期間
岐阜	保体	5月上旬～	変更なし
岐阜	保体	5月下旬～	変更なし
岐阜	保体	6月上旬～	変更なし

岐阜	保体	6月上旬～	変更なし
秋田	保体	5月上旬～	変更なし
宮城	保体	6月中旬～	変更なし
東京	保体	9月下旬～	変更なし
神奈川	保体	5月下旬～	変更なし
富山	保体	5月下旬～	変更なし
福井	保体	6月上旬～	変更なし
愛知	保体	5月下旬～	変更なし
愛知	保体	5月下旬～	変更なし
大阪	保体	5月下旬～	変更なし
大阪	保体	5月下旬～	変更なし
大阪	保体	9月上旬～	変更なし
島根	保体	5月上旬～	変更なし
福岡	保体	5月中旬～	変更なし
福岡	保体	5月下旬～	変更なし
長崎	保体	5月下旬～	変更なし
宮崎	保体	9月下旬～	変更なし
沖縄	保体	6月上旬～	変更なし
沖縄	保体	6月上旬～	変更なし
沖縄	保体	6月上旬～	変更なし
沖縄	保体	10月上旬～	6月上旬～

介護等体験訪問指導

前年度と同様、岐阜県社会福祉協議会から3月16日付で社会福祉施設体験を中止とする通知が郵送されてきた。そこで、文部科学省による2月28日付の通知に従い、国立特別支援教育総合研究所が開設する免許法認定通信教育の科目に係る教材を用いた学修に取り組むよう全ての介護等体験履修学生に6月上旬に指示し、10月31日までにレポートを提出させた。

特別支援学校体験は、岐阜県教育委員会から5月12日に電子メールで送付された

実施要領に従い、5月26日の介護等体験第6回の授業において希望調査を実施した。

全ての体験日程に通し番号を付し、部活動や課外活動などの予定を考慮に入れて第5希望までの学校と日程を予め考えてくるよう指示した。そして、通し番号の範囲内で作成した乱数順に希望を聴取した。この方法が効を奏し、混乱も不満の声も全く出ることなく各日程に割り当てられた定員に収まるよう調整することができた。

実際の体験はオンラインと実地とに分かれた。オンラインで実施されたのは10月5日から6日にかけての岐阜県立長良特別支援学校における体験のみであった。該当する学生2名を教職課程センターに集合させて Cisco Webex Meetings によって参加させた。その他の日程は実地体験となったため、教職課程担当教員が個別に電話をかけ、許可が降りる限りにおいて各体験校に訪問指導を行なった。

当初の履修者は33名であったが、例年になく辞退者が多く、本稿執筆中の2023年12月10日現在、履修を継続しているのは23名となっている。辞退の理由や背景は様々であったとはいえ、教職課程履修学生の中学校教員への動機や志望を高めたいための一層の工夫が求められよう。

教職指導とキャリア支援

これまで通り、教職指導とキャリア支援に継続して取り組んだ。

電子履修カルテおよび管理パネルは既に日常的な教職指導のなかに定着しており、介護等体験や教育実習にかかる訪問指導の所見や個々の教職課程履修学生の動向を定

例で開催されている教職課程センターの運営にかかる会議の場で重要度に応じて共有し、教職員の連携と教職指導の質の向上に生かしている。

2023年度は、電子履修カルテおよび管理パネルを機軸とした教職実践演習の実現に向けて、シラバスの検討と授業内容の改善にも取り組んだ。全学／各学科教員養成理念に示された資質・能力が4年間の教職課程を通じてどれほど身に付いたか、現実の学校教育において実際に起こりうる問題や場面に即して省察できるような授業内容に改善を図っているところである。電子履修カルテの本格的な運用が開始された2021年度入学者が4回生となる2024年度における実現を目指して検討を進めている。

教職へのキャリア支援としては、教員採用試験を想定した演習問題の定期的な配付と朝日大学教職課程 Moodle の運用を続けている。また、2023年度は教員採用試験対策のための特別な予算が充当されたため、民間企業が実施する全国模試の受験料や学内で開かれる TAC による特別講座の受講料も全て無料とすることができた。

2023年6月28日には、教員採用試験における面接や集団討論を想定した指導も実



面接・集団討論を想定した指導の様子

施した。また8月上旬には、例年通り、一次試験を突破した者を対象に面接の練習と講評、小論文の指導も集中的に行なった。

なお、2022年度後学期から開始した個人面接の定期的な指導については、希望者が集まりにくいことと、日程の調整や急な変更にかかる教職課程担当教員の負担が重くなることから、新年度の教職課程ガイダンスでの周知に留め、希望者に応じて不定期で実施するかたちへと変更した。

さらに、教職課程履修学生の個々のニーズを把握したうえで希望する勤務地の教員採用試験や私立学校の採用に関する情報を適宜提供したり、岐阜教育事務所学校職員課が主催する講師等採用説明会を学内で開催したりするなど、教職へのキャリア支援にも引き続き取り組んでいる。

教職課程にかかる各種の研修

継続的なファカルティ・デベロップメント（以下、FD）として、以下に述べる研修会を教職課程センター内で開催した。

まず2023年5月10日には、実務家教員を対象に、学術論文を執筆するためのデータの取り方や文章の書き方について研究者教員による講義を行なった。

また、2022年12月7日に実施した既報のワークショップに続くFDとして、情報機器を活用した教員養成教育の実現に向けて、2023年7月13日に商業科の公開授業を、9月20日には保健体育科の授業実践報告を、10月12日に地理歴史科の公開授業を、それぞれ行なった。

これら一連のFDでは、授業や報告の後に意見交換の場も設け、各教科教育法の担



保健体育科の授業実践報告の様子

当教員を中心としてより効果的な情報機器の活用の在り方について考察を深めた。その成果の一端については、本号に実践報告を掲載している。詳細については、そちらを参照されたい。

以上のFDのほか、一般社団法人全国私立大学教職課程協会（以下、全私教協）が主催した2023年5月18日の第42回研究大会にオンラインで参加したり、11月18日の研究交流集會に現地参加（中京大学名古屋キャンパス）したりし、そこで得られた教育政策に関する最新の情報や教員養成教育改革をめぐる諸動向について朝日大学内での共有も図った。

教職課程自己点検評価の結果と展望

前年度にまとめた『2022年度朝日大学教職課程自己点検評価報告書』は、2023年2月中旬に大友克之学長の決裁を受け、3月にウェブサイト上で公開された。また、同報告書を全私教協に提出したところ、審査を経て受理されたとの報告が4月25日にあり、5月17日に認証証明書が届いた。

先述した全私教協が11月18日に主催した研究交流集會では、加盟校における実績

や予定について大まかな報告がなされた。そのなかで、今後の予定として2年目も自己点検評価に取り組むと回答した大学が多数あることが示された。朝日大学でも、いかなる周期で自己点検評価を実施していくことが現実的かつ建設的なのか、慎重に検討する必要があるだろう。

高大連携・接続によるアクティブ・ラーニング研究会の開催

2023年2月14日に第10回研究会が朝日大学5号館511教室において対面形式で開催された。

当日は、まず、講師として招聘した岐阜県立岐阜商業高等学校教諭の石川勝久氏と補助者の古川翔也氏による、参加者を生徒に見立てた模擬授業が実施された。参加者たちが、配付されたタブレット端末にインストールされた会計業務用のアプリケーションを用いて財務諸表を分析し、得られた結果から課題と解決策を考えるというアクティブ・ラーニングの方案が提起された。その後、石川氏による授業設計における要点の解説と、それを踏まえた参加者との質疑応答と意見交換がなされた。

次に、中津商業高等学校教諭の野村康介氏から、情報機器と情報通信技術を活用した商業科の授業実践に関する報告がなされた。教職3年目の若手教員の視点から成果と課題をどのように捉えているのか、また、教師と生徒の双方に利点を生む最適化のはかり方とはいかなるものかについて、実際の生徒たちの様子や成果物が可能な範囲で示されつつ提案がなされた。

岐阜県内の高等学校教員、教育行政職員、

朝日大学の教員と教職を志望する学生の合計40名の参加があり、成功裡に終えることができた。当日の詳細については末尾に付した研究会通信を参照されたい。

最終回となる第11回の研究会は、2024年2月5日に開催する。福井大学教育・人文社会系部門教員養成領域教師教育講座准教授の遠藤貴広氏による基調講演をもとに、アクティブ・ラーニングと学習評価の問題について議論を深める予定である。

岐阜県立池田高等学校との交流事業

前年度の2022年10月5日に締結された教育連携協定に基づき、岐阜県立池田高等学校（以下、池田高校）との交流事業に取り組んできた。

既報の通り、2023年2月8日には、池田高校で実施された2022年度の学習の総決算となる学年発表会に、教職課程履修学生8名、教職課程専任教員7名が参加し、各学級における助言や講評を行なった。

また2023年度に入ると、まず、5月31日に教職課程履修学生8名、教職課程専任教員6名が第1回の交流事業に参加し、リクルート社が開発した教材「高校生RING PLAN」を利用した2年生のグループ内発表に対して助言や支援を行なった。

次に6月27日には、第2回連携協議会を開催した。池田高校からは鈴木彰校長が、朝日大学からは大友克之学長、田中聡事務局長、教職課程専任教員6名が参加し、2022年度の事業報告と2023年度の事業計画について協議した。

続いて9月13日、再び池田高校で行なわれた交流事業に教職課程履修学生8名と



第2回連携協議会の様子

教職課程専任教員7名が参加した。当日は、自然科学、人文科学、国際理解、看護医療、保育福祉、アート情報の各コースに分かれて2年生が取り組んでいる課題発表に対して助言や支援を行なった。やや具体的には、前述した「高校生 RING PLAN」を利用して、①「不便」や「不足」といった何らかの「不」を解決したい人とその内容を設定し、②解決した理想の状態を想像し、③具体的な解決策を構想し、④その解決策を世の中のサービスとしてどう成立させるかを考察するという手順で高校生が発表し、それに対して大学生が助言や支援を行なう、というものであった。

その後、11月1日にも教職課程履修学生8名と教職課程専任教員6名が池田高校を訪問した。この日は、池田町の基本施策



参加した学生と教員（池田高校玄関にて）

である「自然と調和し輝き続けるまち創造プラン」に基づいて、2年生がコース別の新たな課題を決定することを目指した。大学生は、その課題設定と発表資料の作成に対して助言と支援を行なった。

また11月9日には、教職課程を履修している法学科3年生4名、経営学科3年生4名、教職課程専任教員4名が、池田高校の公開授業週間に合わせて授業を見学した。法学科の学生は「歴史総合」と「公共」の、経営学科の学生は「情報A」の授業を、それぞれ参観し、授業の設計や手法、生徒への対応の仕方などについて学んだ。2024年度に予定している教育実習に向けて、学校教育現場の雰囲気を知る機会になった。

その他にも11月14日に、鈴木校長の厚意により、池田高校の40周年を記念して開催された、植松電機代表取締役の植松努氏による「思うは、招く」と題した講演会に教職課程専任教員1名が参加した。

今後は、2024年2月8日に池田高校で行なわれる学年課題発表会に参加し、これまでの交流の成果を総括する予定である。

大垣市立東中学校との交流事業

前年度と同様に、2023年度も大垣市立東中学校が夏季休業期間中に実施する学習支援活動「サマースクール in 東中」への参加依頼があった。

そこで、8月3日の活動に教職課程履修学生6名（教育実習を控えている4年生1名、3年生5名）と教職課程専任教員1名が、同じく4日の活動に学生7名（教育実習を控えている4年生1名、3年生6名）と教員1名が、それぞれ参加した。両日ともに

午前中のみという限られた時間ではあったが、宿題に取り組む中学生から出された質問に対して、どの学生も真摯な態度で指導や助言を行なっている姿がとても印象的であった。

このような中学生への学習支援活動を通じて、参加した学生からは「大学で学ぶ知識だけでなく、実際に人に教えることにも慣れていきたい」「学習支援活動に携わることで自分の自信に繋がった」との声を聞くことができた。教職課程履修学生にとって、教育実習に向けての改善点を見いだすとともに、教職への志望を高める良い機会ともなった。

朝日大学エクステンション・カレッジの運営

長く続いた、いわゆるコロナ禍も一定の落ちつきを見せ、2023年度は大きな混乱もなく全ての講座を開講できた。実績は以下の通りである。受講者は前期201名、後期181名で、前年度を上回る盛況となった。

複数の講座を同時に受講する人や、同一の講座を前年度に続いて再度受講する人も現れており、この取組が、社会的関心や向学心の強い市民にとって有意義なものとして認知されてきていることが窺える。

今後も、より幅広い学部学科の教員に積極的な開講を呼びかけることで、質と量の両面

2023年度朝日大学エクステンション・カレッジ開講実績

講座名	講師	前期			後期		
		会場	回数	人数	会場	回数	人数
学び直し!!世界の歴史(午前の部)	虫賀	ハートフルスクエア G	3	29	—		
学び直し!!世界の歴史(午後の部)	虫賀	ハートフルスクエア G	3	31	—		
学び直し!!世界の歴史—アメリカ合衆国史—	虫賀	—			ハートフルスクエア G	3	35
Enjoy TOEIC English!!	野畑	ハートフルスクエア G	5	12	ハートフルスクエア G	5	13
能と狂言と徳川家康	米田	ハートフルスクエア G	3	20	—		
ポジティブ心理学入門	亀田	ハートフルスクエア G	5	30	ハートフルスクエア G	5	31
教育勅語について考える	足立	ハートフルスクエア G	3	3	ハートフルスクエア G	3	7
脳を活性化させる楽しいオノマトペ音読	藤野	—			ハートフルスクエア G	1	12
ラテンアメリカ文化を知ろう	新井	朝日大学	2	9	—		
実践ウェブサイト作り	山本	朝日大学	4	8	朝日大学	4	10
自分の認知の癖を知って、ストレスと上手に付き合おう!	五十嵐	朝日大学	2	19	—		
音やにおいがヒトにもたらす作用からよりよい生活環境を考えよう!	五十嵐	—			朝日大学	1	21
古文書講座	山下	朝日大学	6	33	—		
古文書講座(入門編)	山下	—			朝日大学	6	25
古文書講座(応用編)	山下	—			朝日大学	6	24
将軍が愛でた園芸植物	大岡	朝日大学	2	7	朝日大学	2	3

から充実を図っていく必要がある。そのためには、やはり報酬の面も含めた講座担当者への待遇の改善にも努める必要があるだろう。

いて報告しておきたい。2023年12月10日現在、電子履修カルテの管理パネル上の名簿に掲載されている人数は以下の通りである。なお、大学院生および科目等履修生で教職課程を履修している者はいなかった。

教職課程履修学生数と過去5年間の教員免許状の取得状況

最後に2023年度の教職課程履修学生数と過去5年間の教員免許状の取得状況につ

2023年度教職課程履修学生数（2023年12月10日現在）

学科	1年次	2年次	3年次	4年次	計
法学科	16	10	6	9	41
経営学科	12	6	5	5	28
健康スポーツ科学科	55	26	26	24	131
総計	83	42	37	38	200

過去5年間の教員免許状の取得状況（2023年12月10日現在）

年度	免許状の種類（教科）										合計 (件)	合計 (人)
	一種免許状						専修免許状					
	中		高				中	高				
	社会	保健 体育	地理 歴史	公民	商業	保健 体育	社会	公民	商業	情報		
2018	5	—	8	4	13	—	0	0	0	0	30	22
2019	0	—	0	0	11	—	0	0	0	0	11	11
2020	1	20	6	6	4	29	0	0	0	0	66	39
2021	7	24	7	9	7	34	0	0	0	0	88	50
2022	9	23	10	10	6	36	0	0	1	0	95	53
合計	22	67	31	29	41	99	0	0	1	0	290	175
開校以来累計	328	67	317	350	363	99	4	2	5	1	1638	926

研究会通信

第19号
2023年1月

第一〇回研究会の日程と内容が決まりました

明けてしましておめでとございます。本年もよろしくお願いたします。第一〇回研究会の日程と内容について以下の通り決定いたしましたのでお知らせいたします。

次回研究会は、二〇二三年二月一四日(火)一三時三〇分より、朝日大学五号館五一一教室にて開催

科の授業です。前半では、岐阜県立岐阜商業高等学校の石川勝久先生を講師としてお招きし、参加者を生徒に見立てた模擬授業を実施していただきます。石川先生は、大学を卒業後、会計事務所における勤務を経て商業科の教員となられました。

現在は、再び県立岐阜商業高等学校に在り、これまで県立大垣養老高等学校などで活躍されてきました。

現在、再び県立岐阜商業高等学校に在り、これまで県立大垣養老高等学校などで活躍されてきました。

- 第一〇回研究会(予定)
- 一三時〇〇分 受付開始
 - 一三時三〇分 開会の挨拶
 - 一三時四〇分 模擬授業・会計ソフトを活用した財務諸表分析
| 課題発見力・解決能力の育成
 - 一四時三五分 授業設計の要点に関する解説
 - 一四時五〇分 質疑応答・意見交換
 - 一五時〇五分 休憩
 - 一五時一五分 授業実践報告
 - 一五時三五分 質疑応答・意見交換
 - 一五時五〇分 全体討議
 - 一六時二〇分 全体総括
 - 一六時三〇分 閉会の挨拶



石川先生の授業の様子

模擬授業では、タブレット端末にインストールされた会計業務用のアプリケーションを参加者たちが操作しながら財務諸表を分析し、得られた結果から課題と解決策を考えるとというアクティブ・ラーニングの方案を提起いただきます。

また、授業設計における要点についてのお解説と、それをおこなった参加者の皆様との質疑応答や意見交換の時間も取っていただきます。

休憩を置いて後半は、中津商業高等学校にお勤めの野村康介先生から、ICTを活用した商業科の授業実践の成果と課題について報告をいただきます。

野村先生には、教職に就いて三年目という若手教員の視点から、授業においてICTをいかに活用しようかと試みられていのか、またその成果や課題についてどのように把握されているのか、実際の生徒たちの学習の様子

子や成果などを可能な範囲で提示していただきながら解説していただきます。

そして、参加者の皆様との率直な質疑応答や意見交換を通じて商業科の授業実践における今後の望ましいICT活用の在り方について議論できればと存じます。

今回の研究会では、高等学校の商業科に特化した内容を扱うこととなりますが、全体討議では、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりの本質に迫ることができればと願っております。

事務局からの連絡引き続き、幅広い参加者を歓迎いたします。皆様の同僚やご知り合いで、授業づくりやアクティブ・ラーニングに関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ、ご紹介ください。研究会の案内をお送りいたします。

発行：アクティブ・ラーニング研究会事務局
事務局：朝日大学5号館教職課程センター内
電話番号：058-329-1288
メール：kyousyoku@alice.asahi-u.ac.jp

建学の精神 国際未来社会を切り開く社会性と創造性、
そして、人類普遍の人間の知性に富む人間を育成する



〒501-0223 岐阜県瑞穂市穂積1851
http://www.asahi-u.ac.jp/

研究会通信

第20号
2023年2月

第一〇回研究会の活況をお伝えします

第一〇回研究会が二〇二三年二月一日(火)一三時三〇分より朝日大学五号館五一教室にて開催され、成功裡に終了しました。岐阜県内の高等学校教員、教育行政職員、朝日大学の教員と教職を志望する学生の合計四〇名の参加を得ることができました。

前半では、県立岐阜商業高等学校の石川勝久先生による模擬授業が実施されました。その際、同校の古川翔也先生にも補助者としてご協力をいただきました。

まず、参加者がペアを組み、会計業務用のアプリケーション上に予め用意された仮想の小売業者の一年分の財務諸表を分析して問題を洗い



議論の輪ができる様子

最後に、上述の過程を経て説明された問題と原因、解決法

出し、その原因と解決法を考察する課題に取り組みました。次に、ペア同士で問題を持ち寄ったの議論もなされました。石川先生の巧みな言葉がけによって会場にあちこちで熱心な議論の輪が生まれる様子が印象的でした。

について全体で共有が図られました。興味深いことに、同じ問題指摘していても、ペアによってその原因に関する解釈が分かれたり、異なる解決法が提案されたりしていました。模擬授業後の石川先生による授業設計の要点に関する解説と質疑応答においては、まさにこうした解釈や提案の差異こそが、生徒たちを表面的な技能を超えた会計の本質に関する深い理解に到達させるための鍵になるのではないかとの見解が示されました。

後半は、中津商業高等学校の野村康介先生から商業科の授業におけるICTの活用方法についてご報告いただきました。

それぞれの情報機器やアプリケーションの特性を理解し、教師と生徒の双方に利点を生むような最適化を追究することが大切だという、日々の実践から得られた気づきについて発表をいただきました。

研究会の締め括りとして、岐阜県教育委員会学校支援課指導主事の藤井博樹先生から講評と学校への支援に対する抱負をいただきました。

さらに豊田ひさき座長より、これまでご自身が提唱されてきた「Talk with」型の授業に、石川先生の模擬授業は適うものであるとの指摘がなされました。また野村先生に対しては、生徒たちがただ情報を伝達し合うだけでなく、自ら情報を発信したり、その誤りに気づいたりしたときに感じる驚きや感動をも共有し合えるような授業づくりを目指してほしいとの激励がなされました。

参加者の皆様の感想と要望

- 石川先生の模擬授業と解説について、
 - 検定のためではなく、実社会で活用できる良い学びがあった。
 - 思考・判断・表現の質が、深い学びに大きく関わることを感じて感ぜられた。
 - 学んだ事を実社会でどう生かせるかを伝えたいので、自分も模擬授業を参考に実際にやってみよう。
 - 会計アプリはあるが、どう活用するか課題だったため、手がかりをもらえた。
 - 学校教育現場でICTがどう活用されているかを知り、これから教育実習に臨む際の参考になった。
 - 野村先生の授業実践報告について、
 - 質問箱といった環境づくりの工夫が面白いと思った。
 - 生徒にどのような力をつけさせたいのかを考えながら授業で情報機器を使ったと思った。
 - 知識を深めるための手段の一つという点では、教員も場面に応じて積極的に活用していく必要があると再確認できた。
 - 朝日大学の卒業生として自信を持って頑張ってほしい。
 - 要望については、ご要望について、
 - もっと他教科との交流もあって良い。
 - 情報科の研究会も待望している。
 - 教職を目指す学生の模擬授業や研究授業があっても良い。
- 事務局からの連絡
当研究会は、五年間で完成する計画で二〇一七年度に発足しました。新型コロナウイルスの拡大を受けて二年間の延長となりましたが、いよいよ二〇二三年度中に最終回を迎えます。その日程と内容については鋭意検討中です。決定次第、ご連絡させていただきます。

発行：アクティブ・ラーニング研究会事務局
事務局：朝日大学5号館教職課程センター内
電話番号：058-329-1288
メール：kyousyoku@alice.asahi-u.ac.jp

建学の精神 国際未来社会を切り開く社会性と創造性。
そして、人類普遍の人間の知性に富む人間を育成する



〒501-0223 岐阜県瑞穂市穂積1851
http://www.asahi-u.ac.jp/